

令和元年6月13日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02793

研究課題名(和文)外国にルーツを持つ保護者と幼稚園・保育園との育児困難に関するやりとりの分析

研究課題名(英文) An Analysis of Communication with Kindergarten and Nursery School Teachers on Parenting Difficulties among Parents from Foreign Countries

研究代表者

内海 由美子 (UTSUMI, Yumiko)

山形大学・学士課程基盤教育機構・教授

研究者番号：20292708

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：子育てにおいて、保護者と幼稚園・保育園とのやりとりは、両者が信頼関係を築き連携して子育てするために不可欠である。本研究は、保護者と園とのやりとりのうち、子育て上の問題に関するものに焦点を当て、保護者はどのような育児困難を抱え、そのうちどれを園に相談するのかについて、日本人保護者の行動を明らかにした。続いて、日本人保護者との共通点、相違点を明らかにするために外国人保護者に調査を実施した。さらに、外国出身保護者が連絡帳を書く際に参照できる日本語使用支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう！」<http://renrakucho.net/> に寄せられた意見をもとに、サイトの全面的な改訂を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、育児に関する悩みを抱えて孤立しがちな外国出身保護者に対し、園と連携して問題解決を目指すための日本語コミュニケーションの方策を提示できる。それを、無料で閲覧できるサイトで公開し、日本語教室に通えない保護者であってもスマートフォンやタブレットで手軽に参照できるようにしている。保護者が日本語使用に自信を深め、主体的に園とやりとりでき、自分の手で子育てしているという実感が持てれば、保護者の精神的な安定が得られる。これは外国につながる子どもの生活・学習環境を整えるという点でも大きな意味を持つものと思われる。

研究成果の概要(英文)：Communication between parents and their child's kindergarten, preschool, nursery school or daycare are quite important. Through such communication, parents are able to have a good and close relationship with schoolteachers, and work together on their child's upbringing/education. This research focused on communication about parenting difficulties and clarified the difficulties which Japanese parents have and their behavior patterns to discuss them with schoolteachers or not. Then we conducted a questionnaire with parents from foreign countries to reveal common and different points with Japanese parents. We also have totally revised the site 「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう！」：Writing in renrakucho - the parent-teacher notebook」<http://renrakucho.net/> based on the opinion from users.

研究分野：日本語教育学

キーワード：外国人保護者 子育て やりとり 幼稚園・保育園

1. 研究開始当初の背景

平成 24～27 年度に科学研究費補助金(基盤研究(C))の助成を受けた「外国にルーツを持つ母親のためのライティング・シラバスの開発」(代表者:内海由美子)では、より連絡帳の重要性の高い幼稚園・保育園(以下「園」と記す)に焦点を当て、非漢字圏出身の母親を中心にさらに聞き取り調査、連絡帳の収集と分析を行った。連絡帳の文字化データと、先の挑戦的萌芽研究(平成 21～23 年)で明らかにした 5 場面をもとに、連絡帳を書くためのライティング・シラバスを開発し、外国人保護者支援サイト「連絡帳を書こう!」を日本語、英語、中国語、韓国語で作成した(2016 年 3 月公開)。これは、語彙や表現を入れ替えながら自分の連絡帳に書き写すことができるようになっている。また、話した方がいいのか、書いた方がいいのかという技能選択に関するヒントや、やりとりの際に注意すべきポイント等を示すことで、園とのやりとり全体が支援できるようにデザインされている。

しかし「子育てに関する相談」については、連絡帳だけで完結するケースはあまりなく、面談と連絡帳の両方を利用しある程度の期間をかけてやりとりを継続させていることがわかったものの、困ったことや悩んだことを「相談する」場面は、収集した事例が少なく、頻出のトピックや表現を網羅しているとは言えない。

2. 研究の目的

子育てにおいて保護者と園とのやりとりは不可欠である。それにより両者が信頼関係を築き子育ての連携が可能となるのである。本研究では、育児困難を巡って保護者と園との間でどのようなやりとりがされるのかに焦点を当てる。保護者が抱える育児困難にはどのようなものがあるか、その中で、園に相談しているもの、園に相談しないものはどれか、なぜ相談する、あるいは相談しないという行動を選択するのかを分析し明らかにすることを旨とする。

3. 研究の方法

ウェブでアンケートを作成し山形県と仙台市の幼稚園と保育園 614 か所に URL を送る等して実施した。調査の期間は 2017 年 9 月～11 月の約 2 か月である。回答者は日本人保護者等 95 名で、このうち 90 名を分析対象とした。アンケートの選択式の部分では、【園生活】、【子どもの発育・発達】、【子育て】の 3 つのカテゴリー合計 40 項目から、回答者が「困ったこと/悩んだこと」と「園に相談したこと」を選択してもらった。自由記述の部分では、「園に相談したこと」や「園に相談しない理由」を具体的に記してもらった。

この調査結果を分析し、外国出身保護者対象のアンケート項目を洗い出してウェブでアンケートを作成し、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語に翻訳して調査を開始した。

4. 研究成果

日本人保護者を対象としたアンケートから次のことがわかった。まず、子ども同士のトラブル、体調、食事、トイレなど、子どもの発育・発達に直接関わり園生活にも関係することは、園に相談することで、園と連携して解決しようとしている。このような困り事については、園とのやりとりの流れや表現、具体的な行動の選択肢を提示することが支援につながる。次に、先生とのコミュニケーション、園の方針と合わない等、園や先生との対立を引き起こす可能性のある困り事、家庭のしつけに関する困り事の場合は、園に相談しない傾向が強いことが明らかになった。これらの困り事に関しては、園への相談以外の解決・改善方法を示すことが支援につながると思われる。

日本人保護者には困り事でも相談事でもないが外国出身保護者には困り事になり得る項目として、【園生活】に関する「配布物や連絡帳」「準備する物」、【子どもの発育・発達】の「ことばの遅れ」が考えられる。いずれも日本語を母語としない、もしくは日本の文化に馴染みがない外国出身保護者特有の困り事である。そのため、園が外国出身保護者の困り感を理解できない、相談に対する対応の仕方がわからない可能性が高い。日本人保護者の困り事・相談事に加え、外国出身保護者が抱えそうな困り事には、日本語教育の領域から園への働きかけと連携が必要であることがわかった。

一方、平成 24～27 年度に科学研究費補助金(基盤研究(C))の助成を受けた「外国にルーツを持つ母親のためのライティング・シラバスの開発」(代表者:内海由美子)で開発・公開したサイト「連絡帳を書こう!」には、ユーザーや研究者から内容や使用に関して意見が寄せられた。また、園の連絡帳に関しても、スマートフォンのアプリが用いられるようになった等の変化があることがわかった。そこで、モデル文を連絡帳のアプリに直接貼り付けられる、日本人の家族が目指すモデル文を探してそれを外国出身の家族に見せることを想定し、言語間の移動をスムーズにする等の改善を行った。また、ニーズの高いポルトガル語の翻訳を行った。改訂したサイトは 2019 年 6 月に差し替えを完了している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

薄井宏美・内海由美子・澤恩嬉・角南北斗(2018)「困り事を抱えた保護者と幼稚園・保育園とのやりとり 外国出身保護者支援に向けて」『2018 年度日本語教育学会春季大会予稿集』267-272.

内海由美子(2017)「多国籍の子どもが散在する地域の学校」『児童心理』No.1035,62-67, 金子書房

〔学会発表〕(計 4 件)

薄井宏美・内海由美子・澤恩嬉・角南北斗(2018)「困り事を抱えた保護者と幼稚園・保育園とのやりとり 外国出身保護者支援に向けて」2018 年度日本語教育学会春季大会

内海由美子・澤恩嬉・角南北斗(2017)「外国出身保護者支援サイト『連絡帳を書こう!』の運用と改善について」日本語教育方法研究会

内海由美子・澤恩嬉・薄井宏美(2016)「『幼稚園・保育園の連絡帳を書こう!』-外国出身保護者のための支援サイトの開発-」2016 年度日本語教育学会春季大会

内海由美子・澤恩嬉・薄井宏美(2016)「外国出身保護者と幼稚園・保育園とのやりとりに対する支援の試み-日本語使用支援サイト『連絡帳を書こう!』について-」2016 年度異文化間教育学会第 37 回大会

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

外国出身保護者のための支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう!」

<http://renrakucho.net/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：澤 恩嬉

ローマ字氏名：SAWA Eunhee

所属研究機関名：東北文教大学短期大学部

部局名：総合文化学科

職名：准教授

研究者番号(8桁): 50389699

(2)研究協力者

研究協力者氏名：薄井 宏美

ローマ字氏名：USUI Hiromi

研究協力者氏名：角南 北斗

ローマ字氏名：SUNAMI Hokuto

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。